

令和6年度 岩手県立釜石高等学校（定時制）経営計画

校長：青木 裕信

1 校訓・教育目標	1 校訓 「文礼一如」 2 教育目標 「知・徳・体」を備え、調和の取れた人間形成 豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成 広い視野を持ち、社会に貢献する人材の育成													
2 スク ール ・ ポ リ シ ー	(1) 育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー) (2) 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) (3) 入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	・基礎からしっかり学び、確かな学力を身に付け、主体的に判断できる力を育てます。 ・学校生活を通し、多様性を認め合い、他者を思いやることのできる心を涵養します。 ・物事を広い視野でとらえる力、自分の考えを伝える力、他者の意見に耳を傾け理解する力を育みます。 ・基礎学力の定着を目的とし、中学校段階からの学びなおしと高校での学習の基礎習得を中心とした授業を展開します。 ・普通の学校生活、体験学習等の行事をとおして、他者との関わり方を学ぶとともに、主体性や協働意識を育みます。 ・総合的な探究の時間や進路学習をとおして、自己実現のための足掛かりになるよう学びを推進します。 ・定時制でしっかりと学ぶことを希望し、こつこつと努力を積み重ねられる生徒。 ・地域の人々や学校の仲間との生活をとおして、コミュニケーション能力を高めたいと考えている生徒。 ・将来の夢や目標に向けて、学習や行事等の活動に積極的に取り組む姿勢のある生徒。												
3	魅力化協働パートナー	学校関係者、地域関係者、定時制教育振興会、その他												
4 目 指 す 学 校 像	(1) 今年度の重点目標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">重点目標</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">達成指標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 生徒がICT等を活用した授業を通して基礎学力を習得し、それを活用している</td> <td>・「教材の使い方」が「効果的である」と答えた生徒の割合【70%以上】(授業評価アンケート)</td> </tr> <tr> <td>イ 生徒が体験学習を通し地域と交流して、コミュニケーション能力を発揮している</td> <td>・「コミュニケーションを大切にしたり、相手の意見を尊重したりしている」と答えた生徒の割合【90%以上】(学校評価アンケート)</td> </tr> <tr> <td>ウ 生徒が就業体験を通し勤労観を身に付け、進路希望の実現を目指している</td> <td>・「進路学習をきっかけに、将来の生き方や進路について考えている」と答えた生徒の割合【80%以上】(学校評価アンケート)</td> </tr> <tr> <td>エ 実効的に機能する「学校いじめ対策組織」を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる</td> <td>・「学校はアンケートや面談等でいじめの未然防止や早期発見に努めている」と答えた生徒の割合【90%以上】(学校評価アンケート)</td> </tr> <tr> <td>オ 生徒が心理的にも身体的にも安全・安心な学校生活を送っている</td> <td>・「学校は、一人一人を大切にしたりした指導や支援をしている」と答えた生徒の割合【90%以上】(学校評価アンケート)</td> </tr> </tbody> </table>	重点目標	達成指標	ア 生徒がICT等を活用した授業を通して基礎学力を習得し、それを活用している	・「教材の使い方」が「効果的である」と答えた生徒の割合【70%以上】(授業評価アンケート)	イ 生徒が体験学習を通し地域と交流して、コミュニケーション能力を発揮している	・「コミュニケーションを大切にしたり、相手の意見を尊重したりしている」と答えた生徒の割合【90%以上】(学校評価アンケート)	ウ 生徒が就業体験を通し勤労観を身に付け、進路希望の実現を目指している	・「進路学習をきっかけに、将来の生き方や進路について考えている」と答えた生徒の割合【80%以上】(学校評価アンケート)	エ 実効的に機能する「学校いじめ対策組織」を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる	・「学校はアンケートや面談等でいじめの未然防止や早期発見に努めている」と答えた生徒の割合【90%以上】(学校評価アンケート)	オ 生徒が心理的にも身体的にも安全・安心な学校生活を送っている	・「学校は、一人一人を大切にしたりした指導や支援をしている」と答えた生徒の割合【90%以上】(学校評価アンケート)
重点目標	達成指標													
ア 生徒がICT等を活用した授業を通して基礎学力を習得し、それを活用している	・「教材の使い方」が「効果的である」と答えた生徒の割合【70%以上】(授業評価アンケート)													
イ 生徒が体験学習を通し地域と交流して、コミュニケーション能力を発揮している	・「コミュニケーションを大切にしたり、相手の意見を尊重したりしている」と答えた生徒の割合【90%以上】(学校評価アンケート)													
ウ 生徒が就業体験を通し勤労観を身に付け、進路希望の実現を目指している	・「進路学習をきっかけに、将来の生き方や進路について考えている」と答えた生徒の割合【80%以上】(学校評価アンケート)													
エ 実効的に機能する「学校いじめ対策組織」を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる	・「学校はアンケートや面談等でいじめの未然防止や早期発見に努めている」と答えた生徒の割合【90%以上】(学校評価アンケート)													
オ 生徒が心理的にも身体的にも安全・安心な学校生活を送っている	・「学校は、一人一人を大切にしたりした指導や支援をしている」と答えた生徒の割合【90%以上】(学校評価アンケート)													
(2) 取組方針	ア 基礎学力活用場の設定のための取組 (7) 生徒のICT等を活用した授業改善 (イ) 課題解決的な学習活動の導入 イ 生徒主体の体験学習の実施のための取組 (7) 復興担い手育成事業を活用し、4年間を見据えた体験学習の実施 (イ) 企画への生徒の参加 ウ 進路意識を高揚する機会を多く設定するための取組 (7) アルバイト(就業)の支援と推奨、インターンシップの実施と支援 (イ) 進路講演会等(進学・就職)の実施 エ 早期発見と解消に向けた適切な対処のための取組 (7) 「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組とその改善 (イ) 「抱え込み」のない、「学校いじめ対策組織」を中心とした情報共有と組織対応 オ 安全・安心な教育環境の提供のための取組 (7) 生徒への指導方法の改善等に係る日頃からの情報共有や意見交換 (イ) 防災教育を中心とした学校安全管理の推進													